

東日本大震災津波からの 復興の取組状況について

～ いのちを守り 海と大地と共に生きる
ふるさと岩手・三陸の創造 ～

令和4年11月21日

❄ 岩手県



岩手県イメージキャラクター「わんこきょうだい」

復興の状況と課題

安全の確保

【成果・トピックス】

復興道路や海岸保全施設の整備が着実に進捗

- 復興道路（計画延長359km）が全線開通し、復興支援道路・復興関連道路も計画した58か所全てが整備完了
- 海岸保全施設は、計画した142か所のうち、令和5年3月までに141か所で整備完了の見込み
- 復旧が完了した大船渡港のコンテナ貨物取扱量が令和3年に過去最高を記録



【課題】

- ① 復旧・整備を進めている津波防災施設の早期完成
- ② 日本海溝・千島海溝沿い巨大地震における県・沿岸市町村・防災関係機関が連携した津波防災対策
- ③ 災害に強い再生可能エネルギーの導入促進
- ④ 移転元地の利活用

■ 移転元地の利活用状況（県内の買取対象面積322.1ha）

活用済 173.5ha 54%	活用構想なし 115.4ha 36%	(参考) 土地区画整理事業による利活用状況 活用済：55% (162.2ha) 未活用：45% (135.2ha)
活用構想あり10%		

- ⑤ 放射性物質に対する県民等の不安の解消

暮らしの再建

【成果・トピックス】

災害公営住宅や公立学校の復旧整備完了、「いわて復興教育」の推進、コミュニティ形成支援実施

- 災害公営住宅（5,833戸）の整備が完了し、応急仮設住宅の全ての入居者が令和3年3月までに恒久的な住宅に移行
- 関係機関や専門家等と連携した被災者の生活安定に向けた相談支援
- 復興教育副読本の活用などによる「いわての復興教育」を推進
- 生活支援相談員等によるコミュニティの形成支援



柄ヶ沢災害公営住宅（陸前高田市）



小学生の復興教育の様子

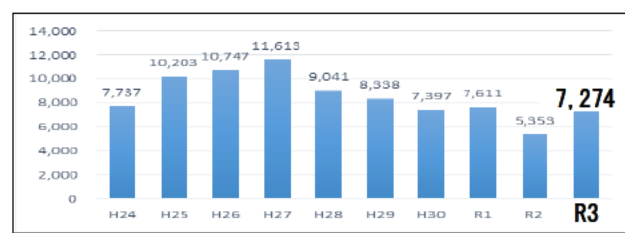


集会所でのeスポーツ体験会

【課題】

- ① 生活面や経済面等の複雑な課題を抱える被災者の生活安定に向けた支援の継続
- ② 被災者に寄り添ったところのケア等の継続

■ 県こころのケアセンターにおける相談件数の推移



- ③ 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築への支援
- ④ 安定的な雇用の維持・確保及び労働環境の整備



復興の状況と課題

なりわいの再生

【成果・トピックス】

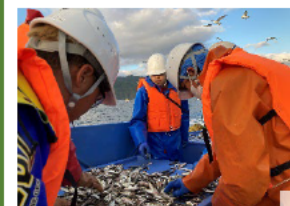
水産業や商工業など事業再開が進展

➢ 漁船や養殖施設、漁港、食品加工場等の施設や設備等の復旧・整備の支援に取り組み、ハード面の復旧・整備が概ね完了

➢ 「いわて水産アカデミー」による地域水産業のリーダーとなる担い手の育成

➢ 債権買取等による中小企業等の事業再開支援

➢ 復興の動きと連動した誘客促進や観光振興
(沿岸地域のR3年度の教育旅行客数は震災前(H22年度)の約2.3倍)



いわて水産アカデミー
定置網乗船実習



「キャッセン大船渡」及び
「おおふなと夢商店街」
(大船渡市) H29.4オープン



震災学習を中心とした教育旅行誘致
(津波遺構たろう観光ホテル)

【課題】

① 主要魚種の不漁対策

(主要魚種の資源回復、増加している資源の有効利用、新たな漁業・養殖業の導入等)

■主要魚種の漁獲量・水揚量

	震災前 a	R3年 b	b/a
サケ	22,306t	273t	1.2%
サンマ	52,240t	2,883t	5.5%
スルメイカ	18,547t	1,102t	5.9%

※サケ(漁獲量)は年度、サンマとスルメイカ(水揚量)は暦年
※「震災前は、H20～H22の平均値



大型で遊泳力の高い強靱なサケ稚魚の
生産技術の開発・導入

② 復興道路等の新たな交通ネットワークを活用した地域産業の振興

③ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者への支援

④ 三陸地域ならではの観光資源を生かした観光振興

未来のための伝承・発信

【成果・トピックス】

震災の事実・教訓の伝承や復興の姿の発信に向けた取組を実施

➢ 東日本大震災津波伝承館における被災物や資料などの常設展示、大学や各地の震災伝承施設と連携した企画展示
(累計来館者数は、本年10月末現在で63万人を達成)

➢ 「いわて復興未来塾」や「復興フォーラム」を県内外で開催し、震災の事実と教訓を伝承・発信

➢ 防災推進国民大会2021(ぼうさいこくたい)や、日本スポーツマスターズ2022岩手大会などにおいて、復興に力強く取り組む岩手の姿や支援への感謝、震災津波の事実と教訓を発信



解説員による展示解説
(東日本大震災津波伝承館)



日本マスターズ2022岩手大会 開会式



大会入賞者記念メダル 表面
奇跡の一本松と
復興支援への御礼メッセージ

【課題】

① 将来にわたり震災津波の事実と教訓の伝承・発信に取り組んでいくための仕組みづくり

② 伝承館を拠点として各地の震災伝承施設を周遊する機会の創出

③ 交流人口や岩手ファンの拡大につながる三陸地域の多様な魅力の情報発信

■東日本大震災津波伝承館の来館者数の推移

R元年度 (9～3月)	R2年度	R3年度	うち4～10月	R4年度 (4～10月)	合計
148,737人	170,699人	168,613人	106,175人	124,634人	635,658人

※R4. 10. 31現在

安全の確保

復旧・整備を進めている津波防災施設の早期完成や災害に強い道路ネットワークの構築に引き続き取り組むとともに、災害にも対応できる自立・分散型エネルギー供給体制の構築や今後起こり得る地震・津波への対応など、地域の社会経済活動の基盤として暮らしとなりわいを支える災害に強い安全なまちづくりを推進する。

暮らしの 再建

被災者一人ひとりの復興の実現のため、被災者の生活の安定や持続可能な地域公共交通を確保するとともに、地域における保健・医療・福祉の体制や教育・文化・スポーツ環境の充実と、地域コミュニティの維持・活性化などにより、お互いに支え合いながら安心して心豊かに暮らせる生活環境の構築を目指す。

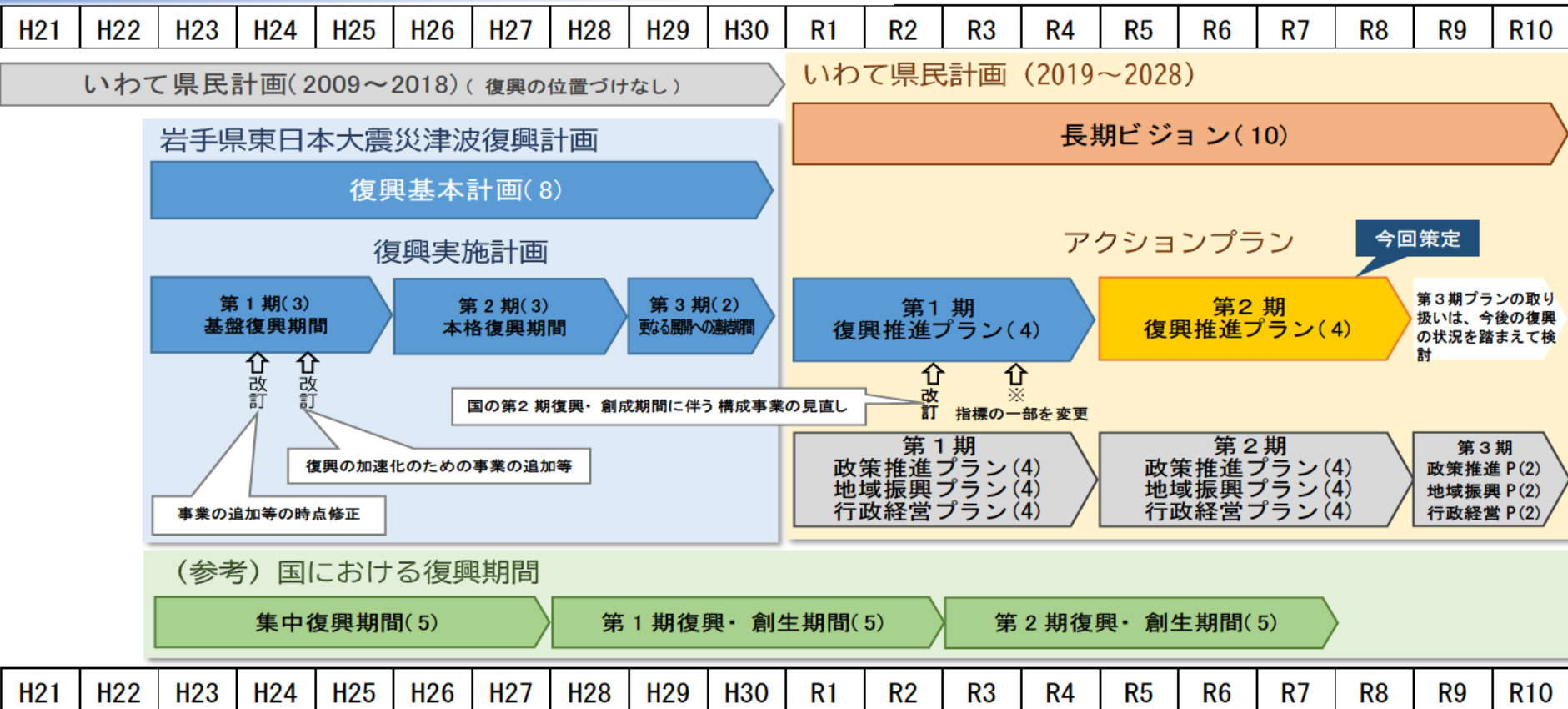
なりわいの 再生

沿岸地域の基幹産業である水産業の再生や、中小企業の経営力の強化、新たに整備された交通ネットワークを活用した物流体制の構築や魅力ある観光地づくりの推進など、地域資源を活用した産業振興や交流人口の拡大により、地域のなりわいを再生し、地域経済の活性化を図る。

未来のための 伝承・発信

東日本大震災津波伝承館をはじめとする県内の震災伝承施設等による事実・教訓の伝承や、防災・震災伝承の担い手の育成、復興の姿の重層的な発信により、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有して震災津波の風化や関心の低下を防ぎ、自然災害に強い社会を実現することを目指す。

(参考) 本県の復興関連計画の変遷



【第2期復興推進プランの策定の基本的な考え方】

- 岩手県東日本大震災津波復興基本計画及び「いわて県民計画(2019～2028)」の第1期アクションプランである「復興推進プラン」に基づく復興の取組を総括し、**残された課題**や新型コロナウイルス感染症への対応等の**新たな課題**を踏まえ策定する。
- ハード整備が概ね完了したことや、人口減少・高齢化を踏まえ、**コミュニティ形成支援**や**伝承・発信**など**ソフト事業**を中心に**中長期的に取り組むべき施策**を盛り込んだプランとする。
- **復興道路**を生かした**新たな産業振興**や**水産業の再生**に向けた施策、**国内外との交流**を活発化する**施策**等を盛り込み、「**新しい三陸の創造**」に取り組むプランとする。